

が発生、水道施設も多大な被害となり、市民生活に大変な不自由を強いられました。衣川区の水道施設整備の現状と今後の方針について伺います。

市長 地震による市水道の状況は、被害箇所109箇所、被害総額2億3593万3000円です。内訳は、国庫補助金1億1543万円、市の起債や修繕費等で大方の復旧工事は完了し、日常生活に支障が無い状況になっております。将来的に衣川区の水道は胆沢ダムの水を使用する方針であります。

質問 市内に布設されている石綿セメント管の現状と更新計画について伺います。

市長 石綿セメント管は軽くて工



給水活動を行なう自衛隊の方々（衣川区）

事が容易なのと安価なため、各地で使用されておりました。当市では江刺・前沢及び胆沢区では更新済みで、水沢区は平成25年度で終了する計画であります。

質問 前沢区では地震の際に黒水が出て、自衛隊による給水支援を受けたが、黒水対策はどの様に進めるのか伺います。

市長 平成18、19年度事業で道場浄水場にマンガン除去設備を設置し、現在送水している水にはマンガンは含まれておりません。平成21年度、お物見配水池と陣場配水池の清掃を実施し、さらに県道新城・馬口沢線に布設されている鑄鉄管5千メートルは平成25年度までに布設替えを完了する計画であります。その他管洗浄も引き続き実施します。

○市の公共施設への地元産材活用について



たかはし かつし
高橋 勝司

質問 学校施設等、公共施設整備事業に奥州市産木材をスムーズに使用するため、業務マニュアルが必要と思いますが考えを伺います。



内装材に地元産木材を活用した衣川中学校校舎


市長 今年4月、農林部農地林務課を窓口として、今後施設整備を予定している関係部署や森林組合との話し合い、先進事例研修などを重ねてきているところであり、また、今「奥州市産木材の利用推進指針（案）」をまとめつつあり、連絡会議を立ち上げる予定です。

質問 衣川中学校建設に内装材として地元産材が使用されていますが、平成21年度真城小学校・岩谷堂小学校の実施設計と前沢統合小学校の基本設計が計画されています。市有林を含めた奥州市産木材活用等の基本的考え方を伺います。

教育委員長 岩谷堂幼稚園、田原小学校の改築事業には、衣川中学校の施工例をもとに、設計書の中

で当初から奥州市産材または県内産材の使用を指示しております。学校改築の基本方針として奥州市の学校建築を進める上で第一に考えなければならぬことは、安全・安心な学校づくりであります。子供達にとって「学びの場」であるとともに「生活の場」でもあることから、安心と潤いをもたらす、こころ安らぐ豊かな空間作りを工夫するとともに、地域に開かれた学校づくりを目指しています。この事は衣川中学校改築事業から始まった、奥州市の学校建設の基本方針としております。奥州市産材につきましても、内装材に可能な限り使用することにしております。

○行革効果と
財調基金不足は？
○事務事業の評価仕分けは？



おの ゆきのぶ
小野 幸宣

質問 市の行財政改革は毎年度実績を上げ、効果額が発生している割には財政調整基金の内部留保が増加していないのはなぜか。また、大規模災害等に対応するため、基金が必要と考えますが伺います。

市長 平成20年度末までの3年間